第２章、バリアフリー化に向けた基本的な方針

２の１、地区の現状と課題

かっこ１、地区の現状

面積（重点整備地区）

107ha

旅客施設（2000人/日以上）乗降客すう

ＪＲ稲毛駅、99,932人（2019年度）

注釈、ＪＲの乗降客すうは乗車人員公表ちを2倍した値

バス便数は千葉市立地適正化計画データより

京成稲毛駅、7,136人（2019年度）

モノレールあながわ駅、3,718人（2019年度）

バス便数、片道（上下線平均）、（2017年）

ＪＲ稲毛駅東口、１日あたり、789本

ＪＲ稲毛駅西口、１日あたり、530本

京成稲毛駅、１日あたり、49本

あながわ駅、１日あたり、278本

生活関連施設数、22施設

生活関連経路延長、約5,600メートル

500メートル圏人口、12,749人

500メートル圏高齢者数、2,180人

500メートル圏高齢化率、17%

注釈、ＪＲ稲毛駅を中心に500m圏の範囲で算出（2015年国勢調査4次（500m）メッシュ）

かっこ２、課題

ＪＲ・京成稲毛地区は、駅周辺の人口がバリアフリーマスタープランで指定した促進地区のうちでも多く、高齢化率の低い地区です。

駅から500m程度の範囲内に、病院や福祉施設、大規模店舗が集積しています。また、駅から1km以上離れた場所に稲毛区役所をはじめ公共施設が集積しています。

駅周辺の主な土地利用は住宅であり、ＪＲ稲毛駅の南東側に設定されている都市機能誘導区域内の大規模倉庫跡地周辺では、市街地再開発事業に向けた検討が進んでいます。

ＪＲ稲毛駅は乗降客すうが多い駅です。バス便数もＪＲ千葉駅に次いで多く、駅西側は稲毛海岸駅方面へ、駅東側は稲毛区役所方面へのアクセスが充実しています。東口駅前広場は再整備に向けた検討が行われています。

稲毛区役所方面へはバス利用が多いことが想定されるため、区役所付近のバス停の利便性向上やわかりやすい案内誘導が求められます。また、ＪＲ稲毛駅と京成稲毛駅間を結ぶ道路は歩道がなく交通量も多いため、歩行環境の改善が求められます。

２の２、バリアフリー方針及び事業の目標年次

かっこ１、バリアフリー方針

ＪＲ・京成稲毛地区の課題を踏まえ、バリアフリーマスタープランで設定したＪＲ・京成稲毛地区におけるバリアフリー方針を以下に示します。

かっこ２、事業の目標年次

本地区別バリアフリー基本構想の計画期間が令和１２年度（２０３０年度）であることを踏まえ、特定事業等の事業期間を、バリアフリーマスタープランの中間評価までの期間を短期、中間評価から計画期間までを中期とし、各期間の終了時期を目標として特定事業等の推進を図ります。なお、計画期間以降に実施する事業については、地区別バリアフリー基本構想改定の際に課題として引き継がれるよう、長期として設定します。

短期

令和３年度から令和７年度（２０２１年度から２０２５年度）

中期

令和８年度から令和１２年度（２０２６年度から２０３０年度）

長期

令和１３年度（２０３１年度）以降